

報告事項ケ

「平成30年度鳥取県コミュニティ・スクール推進研修会」兼「平成30年度第2回学校支援ボランティア研修会」の概要について

「平成30年度鳥取県コミュニティ・スクール推進研修会」兼「平成30年度第2回学校支援ボランティア研修会」の概要について、別紙のとおり報告します。

平成30年11月22日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

「平成30年度鳥取県コミュニティ・スクール推進研修会」兼

「平成30年度第2回学校支援ボランティア研修会」の概要について

平成30年11月22日

小 中 学 校 課

「平成30年度鳥取県コミュニティ・スクール推進研修会」兼「平成30年度第2回学校支援ボランティア研修会」について、開催の概要は以下のとおりです。

- 1 日 時 平成30年11月8日（木）
午後1時30分から午後4時30分まで
- 2 場 所 とりぎん文化会館 第1会議室
- 3 参加者 165名



市町村教育委員会関係者、教職員、学校運営協議会等関係者、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、公民館職員、学校支援ボランティア、PTA関係者、保護者、地域住民 等

4 概 要

(1) 鳥取県の取組

- ・コミュニティ・スクールを導入するねらい、メリットや、地域学校協働活動との一体的な推進の重要性を理解していただくために研修会を開催した。
- ・今年度は、「保護者・地域向け」のリーフレットを作成した。（昨年度は学校教職員向け）
- ・今後の推進方策として、「次期教育振興基本計画への位置づけ」「市町村教育委員会への導入・促進の支援」「県立学校における導入準備」「教職員の社会教育主事講習受講の支援」を行っていく。

(2) 実践発表

○日野町教育委員会事務局

すべては子どもたちとまちの将来のために

～日野町におけるコミュニティ・スクール導入の取組～

- ・社会全体で教育環境を整備するため、平成31年度から中学校区にコミュニティ・スクールを導入する。
- ・有識者、学校長、地域代表等による推進委員会を立ち上げ、導入準備を行っている。
- ・町民が一体となって子どもや地域が抱える課題の解決や、地域のコミュニティの活性化を図るためにコミュニティ・スクールを導入する。
- ・現在は、導入に向けた研修会（熟議体験等）や説明会を開催したり、コミュニティ・スクール啓発のパンフレットを町内全戸へ配布したりして、町全体への理解促進を図っている。



○山口県山陽小野田市

「学校を核とした地域づくり」とそのしくみづくり



- ・社会教育の立場からコミュニティ・スクールの導入に取り組んできた。
- ・社会教育がコミュニティ・スクールに関わっていく鍵は「公民館」と考えた。
- ・公民館等の社会教育施設が学校とつながり、双方向の関係を持つことも有益である。
- ・コミュニティ・スクールのめざすところは「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の両方であることが重要である。

(3) 講演

○文部科学省総合教育政策局地域学習推進課

社会に開かれた教育課程とコミュニティ・スクール

- ・子ども達が生きる未来は、グローバル化、情報化等により予測困難である。これまで「常識」とされてきたことが未来は「常識」と言えるのが不明である。
- ・これからの社会は知識だけではなく「思考力・判断力・表現力」に加えて「主体性・多様性・協働性」などの能力が求められる。(大学入試も改革されてきている。)
- ・「社会に開かれた教育課程」の実現のために「コミュニティ・スクール」のしくみを活用することは非常に有効である。



- ・地域と学校が同じ目標に向かうためには、学校運営協議会での熟議が重要な役割になる。
- ・学校は、すべての子どもたちのために明確な目標をもち、その目標やビジョンを地域と共有しながら計画的に取り組む必要がある。
- ・情報、目標、ビジョンの共有が不十分だと「負担感」や「子ども達の迷い」に繋がる。
- ・学校や地域が「評価する」「評価される」の関係ではなく、それぞれが「当事者意識」を持つ事が重要である。(基本は「自己評価」)

5 参加者の感想

(1) 地域学校協働活動推進員、ボランティア、公民館職員等

- ・学校活動と公民館活動の協働はとても有効であると感じた。
- ・実践発表を聞いてコミュニティ・スクールの本当の在り方が理解できた。
- ・公民館活動の企画運営の参考にしたい。
- ・講演を聞いてコミュニティ・スクールの素晴らしさを感じた。

(2) 学校運営協議会委員

- ・コミュニティ・スクールの意味が理解でき、進め方の参考になった。
- ・子どもたちの未来像をしっかりと共有していきたい。
- ・子どもたちのために何ができるか考えていきたい。
- ・学校運営協議会の委員としてやるべきことが分かった。

(3) 教職員・行政職員

- ・これからの学社連携には公民館が大きくかかわっていくことが必要であると感じた。
- ・今後の社会を考えるとコミュニティ・スクールは必要であると感じた。
- ・コミュニティ・スクール導入に向けた進め方で不明な点について理解できた。
- ・目標・ビジョンを共有するための熟議の大切さを改めて確認できた。
- ・活動ありきの考え方を見つめなおすことができた。

6 今後の予定

第1回の協議会の意見及び研修会の内容を参考に、県立学校、小中学校への導入促進へ向けた方策案や今後の計画について事務局で整理し、第2回の協議会（H30.12頃）で、具体的方策を協議する。

「平成30年度鳥取県コミュニティ・スクール推進研修会」
兼「平成30年度第2回学校支援ボランティア研修会」開催要項

1 趣旨

学校が地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」の推進に向けて、すべての公立学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入を目指している。コミュニティ・スクールの導入による地域とともにある学校づくりの充実方策についての講演、地域学校協働活動・コミュニティ・スクール導入にあたっての実践発表等通して、各市町村における円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資することを目的とする。

2 主催

鳥取県教育委員会

3 日時

平成30年11月8日（木） 午後1時30分から午後4時30分まで

4 会場

とりぎん文化会館（鳥取県立県民文化会館）第1会議室（鳥取市尚徳町101-5）

5 参加者

市町村教育委員会関係者、教職員、学校運営協議会等関係者、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、公民館職員、学校支援ボランティア、PTA関係者、保護者、地域住民 等

6 日程及び内容

| | |
|---------------|---|
| 13:00 ～ | 受付 |
| 13:30 ～ 13:40 | 開会 |
| 13:40 ～ 13:55 | 鳥取県の取組 |
| 13:55 ～ 15:05 | 実践発表 すべては子どもたちとまちの将来のために ～日野町におけるコミュニティ・スクール導入の取組～ 日野町教育委員会事務局 教育課 課長 砂流 誠吾 氏 「学校を核とした地域づくり」そのしくみづくり 山口県山陽小野田市 企画部企画政策課 課長 和西 禎行 氏 |
| 15:05 ～ 15:20 | 休憩 |
| 15:20 ～ 16:20 | 講演 社会に開かれた教育課程とコミュニティ・スクール 文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 コミュニティ・スクール推進係長 相田 康弘 氏 |
| 16:20 ～ 16:30 | 閉会 |